

# 私履歴書

安齋 隆

①

方を紹介しよう。2001年、私がアイワイバンク銀行社長に就任した直後、食事の席での発言だ。

私は福島県出身で、なまり線」と発想を切り替えて行動してきたが、正攻法で突っ走り、相手がかまわず持論をぶつけてしまふ。それで周りは敵だらけかと言つとその逆で、多くの先輩にかわいがら

金融界に飛び込んでから55年が過ぎた。長い道のりだが、あつという間だった気もする。この55年の間に金融界は

激動を続け、息つく暇もなかったせいかもしれない。日本銀行で日本やアジアの

「いつも遠くから君を眺めてきた印象だが、自分の信念を決して曲げずに政治家や官僚、そしてこの職場でも上司、部下と上下の別なく、臆せず真剣にやつてきた。それはそれで立派だし、君の良い

下国家の問題が話題になると、相手がかまわず持論をぶつけてしまふ。それで周りは敵だらけかと言つとその逆で、多くの先輩にかわいがら

## 時代の激動

経営破綻した日本長期信用銀行（現新生銀行）の頭取となって事後処理にあたった。その後、縁あってコンビニエンスストアを

私を理解し、支援してくれたい。しかし商売の世界はそれではうまくいかない。良いか悪いか、正しいか正しくないかではなく、また好きか嫌いかではない。どんなお客様であれ、みんな受け入れないといけないのだよ」

常にも正攻法 突っ走る性格



最近の筆者

でも、なまりが私の個性となつて正論をはきやすいのだとしたら、故郷に大いに感謝しなければなるまい。

中心にA T M事業を展開するアイワイバンク銀行（現セブン銀行）の社長に就任し、元気な銀行に育てたつもりだ。

決して優等生ではない。大きな人間になるなんて期待されたことは一度もないし、人生が順風満帆だと感じたこともない。天下国家のためになる仕事がしたいと思つて日銀に入ったが、人事にはいつも満足していなかった。

先輩が指摘する通り、日銀に勤めた35年半は「国民のためになる」と信じていることを追い求め、正攻法で押ししてきた。民間銀行に転じてからは、先

11年3月、故郷の福島を東日本大震災が襲い、原発事故が発生した。多大な被害をもたらした震災からの復興について福島出身の人間として伝えておきたいことがあるが、それはこの連載の最終回につづりたい。

（セブン銀行特別顧問）

だ」とすると、長銀は「億円単位の」と、セブン銀行は「100

自分ですべての性格を説明するのは難しい。ある先輩の見

先で聞いていられるのだ」

から、先輩も何となく我慢

＝題字も筆者